

＜今日の説教のポイント ヨハネ福音書1章35～51節＞

1 最初の弟子たちの紹介。彼らが従った理由を私たちが追う理由。

キリスト教は、神様がイエス・キリストによってご自身を啓示されたことを信じる宗教です。福音書記者ヨハネは、ここでイエス様の最初の弟子になっていく人たちの様子を記し、それを読む私たちに彼らが信じ従った理由を考えさせようとしています。福音書記者ヨハネが示すものにまず耳を傾けてみましょう。

2 キーワード ① 「見つめる (見る)」:

この個所でまず気づく特徴は「見る」「見つめる」ことの強調です。実に多く用いられています(36, 38, 39, 42, 46, 47[2], 48, 50[2], 51)。洗礼者ヨハネや弟子となる人たちがイエス様を見つめるのであり、またイエス様も彼らを見つめています。確かに、イエス様を見つめることがなければイエス様に込められた神様の意味を知ることは無いわけですし、イエス様が見つめて下さることには、そこに私たちが招き入れようとして下さっている強い意志が感じられます。私たちがイエス様を見つめるようになった理由はそれぞれ違います。しかし、その中でイエス様について深く知るようになる点は共通しています。神様の恵みの御業がここに早くも始まっているのです。

3 キーワード ② 「泊まる」: ヨハネ福音書に 40 回出て来る重要語。

最初の二人の弟子たちが「どこに泊まられているのか」とイエス様に問いかけてその後展開する内容はよく意味が分かりません(38-39)。しかし、ここで「泊まる」と訳されている語はヨハネ福音書に 40 回出て来る重要語なのです。15 章の「私はまことのぶどうの木」の話の中で、「私につながっているなら」の「つながる」と訳されてたくさん出て来ます。また、8 章 31 節では、「私の言葉にとどまるならば、あなたたちは本当に私の弟子である」の「とどまる (留まる)」と訳されています。ですから、今日の個所では、イエス様のもとに留まり、イエス様につながり続ける中で深くイエス様のことが分かって来て、アンデレは「私たちはメシア (キリスト: 神に基づく救い主) に出会った」と兄弟シモン (ペトロまたケファ) に告げたのです。

真の神様を知るためには、神様がそのために与えて下さった方、イエス・キリストに留まり、見つめ続けることが大事なのです!